

あ と が き

保健管理センター講師 足立由美

保健管理センター年報・紀要の第3号をお届けいたします。

本誌に掲載されているのは2009年度の業務報告になります。2009年度はH1N1型の新型インフルエンザの大流行で4月末から対応に追われた1年でした。感染症予防・対策委員会で学内連携を図りながら、保健管理センター長が中心となり、学生および教職員に情報発信を繰り返しました。センターを訪れる学生・教職員に対しては、医師、保健師、看護師が適切な対応を行いました。正課教育では、医師と臨床心理士の教員が1年生の導入科目「大学・社会生活論」の「健康論」において、新型インフルエンザへの対応を追加して指導しました。課外教育では、学生支援GPのセミナーとして6月に国立感染症研究所の多屋馨子先生を講師にお迎えして、学生および教職員に情報提供を行いました。保健管理センターはいつも以上に忙しくなりましたが、学生および教職員の心身の健康を守り、安心を提供するために、尽力できたと思います。

麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘の4種の抗体検査と予防接種勧奨を入学時から行っている金沢大学保健管理センターは、2007年4月の麻疹の大流行の際にその感染症対策が高く評価されたこともあり、2009年の新型インフルエンザ(A/H1N1)への対応でも研究会や他大学から多くの問い合わせを受ける立場にありました。吉川弘明教授と亀田真紀衛生管理者の研究報告がご参考になれば幸いです。

また、2009年度はスポーツ教育部門に寶學淳郎准教授が着任された年でもあります。教員が3名となり、共通教育科目におけるスポーツ教育の充実が図られました。近年、学生の体力の低下や運動不足が指摘されています。ストレス解消のレパトリーの1つとしても、運動習慣が定着することを願っています。

そして、2007年12月に開始した学生支援GPに採択された「心と体の育成による成長支援プログラム」は2011年3月で事業終了となります。詳細は3つの研究報告にあります。このような全学的な事業は多くの方々や各部署の協力がなくては決して進めることはできませんでした。御支援・御協力に心から御礼申し上げます。学生支援という言葉に、一方的に与えるものというイメージをもつ方もおられますが、現在の学生支援は教育の一環としての支援です。学生支援GPを通して私たちも多くのことを勉強させていただきました。この経験をもとに、またこの事業をきっかけとして、学生および教職員の心身の統合的な健康を支援する学内連携体制の充実を進めていきたいと思っています。

今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

2011年1月